



**Sr.池崎の**

**ブラジルから**

**Boa tarde!**

(ボア ターラジ! : こんにちは!)

**第14回目 10月16日(土)~10月22日(金)までのレポート**

## 10月16日(土) リオ・デ・ジャネイロ 2日目

リオ、2日目。ビル群を見ながら中心部を歩きました。ブラジルには、大変奇抜なデザインの建物が多く、新しい建物自体が芸術品だと思わせるものが結構あり、見ていて楽しいです。しばらく行くと、大聖堂がありました。この大聖堂は、さすがに大きく、なんと5000人が収容できるそうです。今日は、何かのミサが行われており、超満員の中、司祭がお話をされていました。大聖堂を後に、中心部にある市立劇場、国立美術博物館、カフェテリアコロンボなど、1900年初期の歴史的な建物を見て回りましたが、近代的な建物と歴史的なものが共存している街は、本当に素晴らしいです。



話は変わりますが、左写真を見て下さい。女性は、カバンを肩から斜めにかけています。実は、私も写真撮影時以外はそうしています。今週日曜日に日本から観光にきた女性が、一人でリオ中心部を歩いていた時、ナイフを突きつけられカバンを奪われたそうです。カバンの中には現金とクレジットカードなどが入っていて、その女性はかなり困ったそうです。実は、私たちも、次の移動先のマラカナン競技場へ行く途中で、女性の悲鳴に遭遇しました。遠くの現場を見ると、女性が一人の男に何かをひったくられたようで、その男を追いかけていました。もちろん、捕まえることはできず、男はビル群の中に消えていってしまいました。目の前で起こると怖さを実感しました。

次に訪れたのは、マラカナン競技場です。今は、ワールドカップに向け工事中です。それを承知の上で、大きさを体感したく、中に入れさせてもらいました。さすが収容人数11万5000人、大きかったです。工事中のため、中の美しさは見ることはできませんでしたが、逆に、工事中のマラカナンを見ることもなかなかできない経験だとも思いました。競技場内には、初期のマラカナン競技場を作った時の道具などを納めた博物館やブラジルサッカーの歴史がわかる展示があり、サッカー熱狂ぶりを感ずることができました。



最後は、コパカバーナ海岸です。この海岸線は、弧を描くように美しく延びていて、4.3kmの長さのビーチが続きます。ビーチでは、日光浴、海水浴、ビーチバレーを楽しむ人がいました。12月頃になると、この海岸も、人で埋め尽くされるそうです。海岸の先端に、コパカバーナ要塞がありました。地下は、大砲を回転させたり大砲のたまを込めたりする部屋や、要塞で仕事をするために必要な部屋がそのまま残された展示館になっていました。ブラジルのこの辺りは、実際に戦争になったわけではありませんが、敵からの攻撃に備えるため、昔のブラジルの首都を守る重要な施設だったようです。



## 10月18日(月) サンパウロ2日目

今日の午前中は、日伯文化協会へ行き、カエルプロジェクトの方との情報交換です。私を迎え入れてくれたのは、吉岡さんという方でした。豊橋でも講演される中川さんは、すでに日本へ出国され、残念ながら会うことができませんでした。

カエルプロジェクトは ISEC（教育文化連帯学会）という NPO の一事業として行われ、メンバーは5人の精神心理学医と多くのボランティアにより行われています。もとは、1994年頃に、日本へ出稼ぎに行く家庭に生じる問題（親だけ日本に行き、子どもを祖父母や親戚に預けたことにより生じる問題など）に対応するためにカエルプロジェクトはあったそうです。ところが、ここ数年は日本からの帰国が多くなり、帰国に際し様々な問題が起きるようになったため、それに対応する事業として、今は活動しているそうです。事業内容としては、ブラジルに帰国してきた子どもや親・その子の在籍している学校の先生へのメンタルヘルス、週に数回ポルトガル指導を行う、日本へ出国の際のアドバイス等を行うそうです。事業にあたっては、州の教育局と連携をとりながら行われているようですが、サンパウロ州といっても広いので、その活動は、州の中心部に限られているのが現状のようです。今回の訪問を無駄にしないためにも、10月後半から、再度クリチバに戻り、パラナ州の教育局の方やクリチバにある文協の方とも話す機会があると思うので、是非、今回の訪問の内容をお話し、少しでも輪を広げたいと思いました。

午後からは、サンパウロの市内見学をしました。今朝は、雨が降っていたので、午後からの観光を心配していましたが、幸いにも天気が好転し、アルティーノ・アランテス・ビルからサンパウロ市内を一望する時は、私のこの時のために太陽が顔を出し、辺りの景色を大変美しく見る事ができました。右写真でも、サンパウロのものすごいビル群を見ることができると思います。



さすが 1900 万人の大都会です。

何か所か見て回ったうちで印象に残り報告書のスペースの許す範囲で書きたいのが、次の2つです。一つはカテドラル・メトロポリターナ（大聖堂・左写真）です。二つの尖塔がゴシック様式で、歴史を感じさせるには十分な建物でした。内部にはブラジル史を描いた美しいステンドグラスがあり、また、神秘さが何とも言えませんでした。それとは対照的に、右下写真はパウリスタ大通りで、一大ビジネスストリートです。ブラジルを代表する企業や日系・外資系企業のオフィスなどがあり、高層ビルが片側4車線の大通り沿いにびっしりと並んでいました。サンパウロの好対照の風景に驚かされた半日でした。



## 10月19日(火) マリンガ滞在特記 ④



大聖堂前の公園では、先週、世界各国の料理展を行っていました。いろいろな団体がそれぞれの国の料理を出す（もちろん有料）催しで、大きなテントのレストランが多数出ていました。上左写真はメキシコ、上右写真がドイツの店です。このほかにも、アメリカ料理の店、アラブ料理の店など10店舗以上のレストランが一堂に集まっていました。日本料理の店も、以前、紹介した老人福祉施設を行っている和順会が開いていました（左上写真）。私も、海苔巻き寿司・刺身・みそ汁を注文し、頂いてきました。（左下写真）。刺身は、

かなりのボリュームで、久しぶりにたくさんの刺身を食べることができました。ちなみに、この海苔巻き寿司はメニューには「ミニ海苔巻き」となっていました。やはり、ブラジルの人一人分が多いことが分かります。

会場には、このほかに、子どもが遊ぶ簡単な遊具施設が置いてあったり（右上写真）、雑貨土産物店が店を出していたり（右中写真）、あたかもお祭りという雰囲気を出していました。さらに、大聖堂横の広場では、右下写真のように、自転車の曲芸乗りに挑戦する若者が、曲芸乗りの練習を行っていて、お祭り雰囲気に花を添えている感もありました。1週間、ずっと行われ、夜も11時までにはぎやかな音楽なども流れていました。



まったく、別件ですが、以前にマリンガでは、土曜日の午後から店が閉まり、土曜の午後から日曜日にかけては閑散としていると紹介しましたが、土曜日の午前中には、買い物客でにぎわう通りもありました。マリンガで一番人通りの多い「ブラジル通り」というところです。土曜日の午前中には左上写真のように、人混みでちょっとまっすぐ歩くことができないくらいでした。

また、土・日曜日にちょっと郊外に行くと、お肉屋さんの前では、左下写真のように、肉の塊を焼いて売っている店が何軒かありました。個人宅で焼くよりも、この方がしっかり焼け、手間もかからないのでなかなか好評のようです。

## 10月20日(水) パラナヴァイ地区州教育事務所訪問



通常?の業務再開です。今日は、パラナヴァイ地区州教育事務所への訪問です。ここの組織や取り組みについて話を伺った後、日本の教育についてもこちらから説明する日です。

地区州事務所の組織や取り組みについては、クリチバでの州事務局や各地区州事務所と同じ内容だったので、主に、日本から帰国してきた編入についてお話を伺いました。昨年度(2009年)、100~120名程度の編入が日本からあったそうです。書類の関係でのトラブルとしては、領事館を通っていない・翻訳していないということが一番多いそうです。しかし、他国に比べ、日本からの編入についてはまだトラブルが少ないとも言っていました。教育の問題としては、ポルトガル語ができないことが大きく、2部制の反対の時間帯で指導しているとのこと。この際に、先日、日本語学校で話をしてきたポルトガル語教室の件を話題にし、是非、この事務所でも日本語学校を紹介して下さるようお願いしました。新しい情報として、小さい頃に日本へ出国したり日本で生まれたりし、ポルトガル語での教育を受けていない子に対しては、その子の年齢相応の学年に編入させる決まりがあるということでした。これは、パラナ州の決まりとしてあるそうです。

後半の時間帯で、日本の教育についての説明をさせてもらいました。説明後の質問で、今回初めて出た内容としては、

- ・ 専門教育について(ブラジルでは、高校での専門教育が少ない)
- ・ 読み書きができない子はいないか(ブラジルでは、教育を受けずに大人になっていった人がかなりいる)
- ・ 部活動で、さらに上達したい子はどうするのか(ブラジルでは、社会体育で対応)
- ・ 不的確教員に対する指導はどうするか(ブラジルでもこういう教員がいるのでしょうか)などでした。



## 10月21日(木) パラナヴァイ市教育局訪問、エリアネ達との再会



今日は、パラナヴァイ市教育局の訪問です。初めに、教務担当の方8人が、各担当業務について説明して下さいました。

話の内容から、充実した業務が行われていると感じました。その一つが、各業務で責任を持って研修講座を行っているということです。例えば、体育担当は体育の授業内容を市で決め、その実施方法についての研修を年7回実施しています

(マリング同様、体育は、体育の免許を持った体育教師が専科的に行っています)。また、1・2年のアルファベット担当は、市内の1・2年生担任教師98人に対し、年間22回の研修を行い、授業の仕方、発音、毎日の学習の仕方、ゲームを活用した指導など、広範囲にわたる研修を行っています。もう一つ興味を持ったのは、市全体で取り組む行事を行っているということです。これまで訪問した市では、聞いていないことです。行事としては、子どもの体育大会(綱引き、競争演技的な種目、柔道、陸上、ドッチボール、障害物走、チェスなど)を市内各校から代表選手を集めて行うそうです(本年度初めて実施。明日予定)。また、モンドロバートという有名作家の作品の一部で劇を作り、それを各校が市で発表する大会もあるそうです。これまでのブラジルの学校では、知識獲得が教育の中心でしたが、パラナヴァイでは、市として心や体を育てる取り組みをしているところがすばらしいと思いました。

説明を聞いた後、今日の訪問校であるノエミア ヒベイロ ドアマラウ校へ行きました。ここは、一日制の教育を行っている学校で、その内容も楽しみでしたが、それ以上に、ここでは、以前豊橋で研修を受けたクリスライネ



(H19。以後、クリスと書きます)とエリアネ(H20)に会える予定だったからです(右写真)。クリスは、本校の体育教師として勤務し、エリアネは、現在育休中で、後1ヶ月ぐらいで復帰します(ブラジルの育休は6.5ヶ月だそうで、エリアネの子は、現在、生後5ヶ月です)。クリスとエリアネは、それぞれ、自分の特技を生かし、日本での研修中にダンスクラブと演劇クラブを作り活動していました。できれば、ブラジルに帰国後もそのような活動を行いたいと言っていました。2部制のブラジルでは時間的な余裕が無く実施は難しく、一日制の学校であれば可能だと思ふという返答でした(パラナヴァイでも18校中一日制の学校は4校)。ブラジル帰国後も、同じパラナヴァイ市内には居るもののがかなり離れていること、クリスは体育教師でエリアネは20時間勤務の教師、と種類も違うので、余り会うことも情報交換すること無いということでした。でも、今回をきっかけに今後は会いたいと話していました。パラナヴァイの中には、まだ日本での研修を希望している人もいるということなので、是非日本での研修への立候補を勧めて欲しいとお願いしておきました。

この後、再度、事務局へ戻り、私から日本の教育についての説明を行いました。